

原点回帰 緊急検査の部会を作ってみませんか！

大阪府臨床検査技師会学術部緊急検査部門

◎津田 喜裕¹⁾、藪 圭介²⁾、濱田 宏輝、福岡 京子³⁾、前田 岳宏¹⁾、櫛引 健一⁴⁾、福田 篤久⁵⁾
近畿大学病院¹⁾、国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院²⁾、地方独立行政法人 りんくう総合医療センター³⁾、和泉市立総合医療センター⁴⁾、学校法人 大阪医科薬科大学 三島南病院⁵⁾

原点回帰 緊急検査の部会を作ってみませんか！～大阪府臨床検査技師会 緊急検査部門～

【はじめに】

大阪府臨床検査技師会に緊急検査部門が設立された経緯としては、大阪府は救急医療に対して他府県と比べて力を入れていた。そのため独立型の救命救急センターが多く建設されていた事もあり、そこに専従する検査技師がたくさん従事していたこともあり救急医療、緊急検査に関する知見が発信されていた。救急医療に関する知見は、病院勤務する検査技師には関心が高く、興味を持つ検査技師が数多く集まった。救急医療、緊急検査に特化した勉強会は無かった事もあり緊急検査部門の前身である緊急検査研究会を立ち上げ勉強会を開催してきた。研究会の存在は、直に広がり府内から多くの技師が研究会に参加された。もっと多くの検査技師に救急医療や緊急検査を取り上げた事業を開催したく、大阪府臨床検査技師会に申請を行ったが、他の学術部でテーマとして取り上げているとして受理されなかったが、特例で実施期間を頂き会員の参加率、反応具合で部門を設立するか試験された。2011年より正式に緊急検査部門として技師会内で活動が開始となった。

【これまでの活動】

毎年3～5回の事業を開催してきた。取り上げるテーマとしては、時事ネタや現場で悩んでいる事を取り上げ、常に現場目線のテーマで事業を開催してきた。時には府民向けに府民公開講座も開催してきた。現場へ有益な情報提供ができるように事業を開催して来たこともあり、多くの参加者で事業が開催できた。しかし、新型コロナウイルス感染蔓延により対面での事業開催が困難となった。新たな開催形式としてオンラインを活用した事業開催が出現した事により、昨年、オンラインにて事業を行った。テーマは常に会員から高評価であった「日当直の不安解消」シリーズを開催した。予告掲示より全国からの問い合わせの反響が大きかった。事前予約時で160名の登録があり全国的に関心の高さがうかがえた。

【今後の目標と課題】

タスクシフトシェアに伴い臨床検査技師の活動する業務範囲が拡大される。そのため、臨床に近い場所で活動が増えると不安や問題が伴うことが想定される。我々としては、不安や問題が解消できる事業の開催をする事は、診療の場で活動するための精度向上に繋がると考える。今回のシンポジウムの開催で、全国の検査技師会に緊急検査、救急検査を取り扱う部門が構築されるよう問いかけ続けたい。

(連絡先：072-366-0221)